

休泊川流域水害対策協議会 幹事会 実施結果報告

回数	日程、 場所・方式	参加者	議題	主な意見
第1回	R6.6.19 県庁 294 会議室	27 名 (28 名中)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休泊川流域水害対策計画の策定に向けて ・ 都市浸水想定について ・ 浸水被害軽減対策の法制度や事例について ・ 今後のスケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休泊川排水機場を増強しても浸水する地域が残ることを確認した。市街地の浸水を解消できるような計画を策定していただきたい。 ・ 休泊川流域は都市化が進んでおり、治水対策の難しさも感じた。それぞれの関係機関が一体となり、氾濫を防ぐ対策や水災害を防ぐ対策をしなければならない。
第2回	R6.9.11 WEB 会議方式	27 名 (29 名中) ※明和町 新規参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市浸水想定について ・ 都市浸水想定を踏まえた試算、浸水被害対策について ・ 雨水貯留浸透施設の整備への支援について ・ 貯留機能保全区域の指定について ・ スケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市浸水について富士堰周辺地域や休泊川沿いの浸水エリアについては、概ね実際の状況と合っている感覚があるため、今後関連資料等を踏まえて精査していければと思っている。 ・ 河川改修と排水機場の増強だけでは、令和元年東日本台風の降雨規模に対して安全を確保できないことを改めて認識した。引き続き本日の議論のように流域の関係機関と有益な対策について検討しつつ、ご意見や進捗状況を伺いながら進めていければと考えている。
第3回	R6.11.6 WEB 会議方式	24 名 (29 名中)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市浸水想定の見直しについて ・ 都市浸水想定を踏まえた浸水被害対策について ・ 休泊川流域水害対策計画(素案)について ・ 他地域における流域対策事例について ・ スケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国での排水機場の対策などにより、床上浸水の解消には向かいそうだが、それでも流域の浸水は残るため、流域全体で協力しながら治水安全度を高めていけると良い。今後も協力をお願いしたい。
第4回	R7.1.27 WEB 会議方式	28 名 (29 名中)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休泊川流域水害対策計画(素案)について ・ 流域分担量及び流域対策について ・ 協議会、幹事会及び国土交通省意見照会を踏まえた変更について ・ 流域水害対策計画の計画管理について ・ スケジュールについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標対策量は、実現可能な値を設定するものと認識している。水田の活用は地権者の承諾が必要であるため、今後も継続した調整が必要。 ・ 流域対策は、関係部署等との協議・調整が必要であるため、引き続き検討していきたい。 ・ 貯留容量の計画管理は、調査が煩雑にならないよう考える必要がある。 ・ 河川対策だけでは水害を防げないため、地域の安全のために、流域対策も必要不可欠。